

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702800		
法人名	有限会社ケア・サービスさかえ		
事業所名	グループホームころろ		
所在地	北九州市八幡西区木屋瀬二丁目7番8号		
自己評価作成日	平成25年8月8日	評価結果確定日	平成25年9月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成25年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所時から町内会や商工会に加盟し地域の行事に参加して、グループホームの存在を理解していただき、木屋瀬のボランティアの方々にイベントに参加していただいています。 入居された後は、ご家族様と共に介護をさせていただき、慣れたホームでの生活を末永く継続していける様に頑張っております。 愛犬のころろは、ご利用者様と触れ合い大変喜んでいただいています。 玄関は、施設しておらず気軽にホーム内の見学ができます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームころろは、愛犬ころろの散歩が地域のパトロールを兼ねて、近隣の方たちと挨拶を交わしたり、お宮や公民館の清掃などに入居者と共に参加したり、商工会のくじで職員が参加した旅行がきっかけで、近隣からの入居が増えつつあるなど、地域の中に溶け込んでいる。車椅子の利用が多くなり、また意思表示のできる方が少なくなる中、「今出かけたい」との意向を大切にしたい個別支援計画で、お好み焼きを食べに行ったり、おやつを買いに出かけている。そして、手の届くところへ近寄れないほどの不穏状態が夜間の対応に苦慮した入居者も、テレビから流れてくる歌を口ずさみ、トイレで排泄ができるようになり、食事を自力で食べるほど穏やかな生活を送れるまでになっている。職員たちの粘り強い対応の成果であるが、開所10年の経験や看取りの積み重ねも財産にしながら、理念の「地域の中の一世代として、穏やかに楽しく尊厳ある生活を目指します。」の実践が、今後も期待できるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名

グループホームころこ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、定期的に行なう社内ミーティングで話し合いをしている。	玄関に掲げられた理念の「地域の中の一世代として、穏やかで楽しく尊厳ある生活を目指します。」は、日頃の地域とのかかわりの中や、職員の笑顔と真心で引き出す入居者の笑顔に、しっかり実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	可能な限り地域の行事に参加している。地域で開催される敬老会に参加している。近隣のお店を利用し、交流している。	町内行事の案内が回覧板で知らされ、お宮や公民館の清掃などに、男性入居者と共に参加している。職員が商工会のくじで旅行に参加し、近隣の方と顔見知りになり、近隣からの入居が増えつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議に参加している民生委員や、市の職員方との話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かせるように、努めている。	運営推進会議を全入居者の家族に案内し、1、2名の家族が参加している。民生委員、地域包括支援センター職員の参加で、定期的開催され、会議録も整備されている。満載したスナップ写真で入居者の生活の様子を報告したり、外部評価等を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に参加している市の職員の方に、取組みを報告し、アドバイス等をいただいている。	地域包括支援センターへ空室情報を連絡している。情報提供後、すぐに他の包括支援センターから紹介や相談を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内・外での研修に参加し、身体拘束を行なわないケアに努め、身体拘束ゼロ委員会を組織している。	バルンカテテルを挿入したまま退院し、入居された方もあるが、抜去を防止するために持参したミトンを使用することなく過ごされている。車いすに入居者を座らせることにも心を痛めながら、安全を考えて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内や社外での研修に参加し、高齢者虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のパンフレットを活用したり、市主催の研修会に参加している。	玄関脇に日常生活支援事業と成年後見制度のパンフレットを掲示し、入居契約時には必ず説明をしている。現在、制度等の活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や意見・要望は気軽に話せている。意見箱を設置し、いつでも投函できる。職員に利用者の各担当を決め、意見や要望を気軽に話せるようにしている。家族アンケートを実施し要望等を聞き取りした。	入居者のスナップ写真が満載されたホームだよりの発行で意見の表出を促したり、家族の訪問時に意向を伺っている。リハビリの要望で、手引きでトイレ誘導をしている。イベントに合わせて家族会を開催し、家族同士の話し合いの場を設けている。家族から避難訓練時何を手伝ったらよいかの意見があり、訓練の案内をしたが参加はなかった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行なう社内ミーティングで、要望や提案を尋ね職員が意見しやすい職場環境に努めている。	月1回のミーティングを開催し、職員の提案で風呂場のシャワーチェアや足台が購入され、入浴支援が容易になっている。また、デジカメやノートパソコンも購入され活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力に応じ業務を任せている。やりがいのある職場環境に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は問わず募集し入社後は、負担にならないよう得意分野から勤めている。	職員の離職に対応し、勤務時間を変則的にしている。ハローワーク等で常に募集はしているが、応募はあっても定着しないのが現状である。男性2名を含む20代～50代の職員達は、4年目以上の勤務者でチームワークも良く、介護支援専門員を受験する職員の勤務時間に配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年人権週間に研修を行っている。	市で開催された研修会に代表者が参加して、ホームで伝達講習が行われている。高齢者虐待防止マニュアルを整備し、身体拘束ゼロ委員会でも、人権の尊重を原則に検討がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は、認知症介護実践者研修に2名参加し、管理者研修にも、1名参加した。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	親睦会やGH協議会の研修や報告会に参加している。 他のGHの職員との交流時には、情報交換し社内ミーティングを通し、サービスの質の向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りご本人やご家族の方との面談を行い希望や要望等聴いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談時(電話・訪問)から詳しくお話を聴き、可能な限りご本人にも見学に来ていただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ他のサービスや施設の検討をすすめている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務を優先する事ないように常に心がけ一緒に過している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時はもちろん必要に応じて電話での現状報告(日常的な出来事や急変時等)し、ホームのアルバムを回覧したり年に3～4回はホーム便りを配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や友人関係の方宛に本人が書いた手紙を定期的に出している。(年賀状・暑中見舞い) 利用者のお友達がホームに尋ねることもある。	最近、入居者の重度化もあり、馴染みの方の訪問が減っている。2日前に近隣の方の入居があり、家族や顔見知りの方の訪問を期待している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がふれ合えるような環境や雰囲気作りを職員も心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及びご家族の方に入居前や入居後に希望を聞き、希望に応じられる様に取り組んでいる。	フェイスシートに入居者の生活歴・職歴などを記載している。職員は日頃の関わりの中で、笑顔の時や不快な時等、気づきノートに把握したことを記入し、全職員で入居者のその人らしさや意向の確認をしている。気づきノート内容が、計画に盛り込まれ、また新たな思いや意向の引き出しに繋がっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方やご本人に生活歴等を聞き取り職員全員で把握するように個人ファイルに綴じている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に心がけ現状はどうなのか観察し、日々記録している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴等の情報を収集ご本人や、ご家族の意見や要望を取り入れ介護計画を作成している。	長期目標に本人の言葉をそのまま記載し、気づきノートで引き出された本人の好きなことがサービス計画で支援されている。月1回のケアカンファレンスで、職員たちの意見がモニタリングに集約され、新たな取り組みへと繋げている。家族の思いや意向と入居者の心身の状況のすり合わせに、苦慮する場合もある。	運営推進会議や家族の会等、機会ある毎に、入居者の現状の理解をお願いし、家族とともにより具体的な個別性のある介護計画を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人とのやりとりを行なった介護等を詳細に記録している。 個人に応じた個別機能訓練等取り入れて行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の能力に応じ、家事や買い物等できる様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じて入居前のかかりつけ医を継続しているが、現在はホームでの往診者が多い。	家族にかかりつけ医受診の同行をお願いしているが、負担が大きく定期薬を取りに行くだけになり、往診の希望が多く、2週間に1回の往診や訪問歯科受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録とは別に気づきノートを活用し個人の情報を伝達している。 常に看護師へ報告・連絡・相談し健康や安全に配慮したケアを行なっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに脚を運び状態や経過の情報を得ている。 早期退院に向けたマニュアルを作成		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な場合は病院への搬送が多いがご本人や家族の意向を入居時に確認し1年に1回再確認している。看取りも実施している。	1年に3件の看取りをかかりつけ医と連携して支援し、家族からの謝辞や家族の思いの深さ、死の受容の難しさも体験している。職員は今ある笑顔を大切にしたいとの強い思いで毎日を支援しているが、もっと何かできたのではと自問している。リースのAEDを設置している。全員使用できるように研修し、急変時に備えている。	これまでの看取り支援の振り返りを実施し、支援時の問題の共有と課題の整備を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時マニュアルを作成し見やすい場所に掲示してある。 社内研修でも外部の協力を得て実践出来る様に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難マニュアルを作成し避難訓練を利用者と共に行っている。 指定避難場所までの避難訓練を実施した。	防災計画による年2回の昼間と夜間想定 of 避難訓練だけでなく、市の奨励で6月に風水害時を想定した避難訓練を入居者と共に実施した。避難所となっている小学校まで車椅子車両でピストン輸送し、小学校の先生とも顔見知りになっている。備蓄品はリュックに詰め、何時でも持ち出せるよう玄関に設置し	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい暮らしが継続出来る様に、常に配慮し行なっている。	トイレに行きたいなどの意思表示はできない入居者も、自然に支援されている。入居者の人格を尊重する姿勢が重度化の自然な受け入れとなり、プライバシーに配慮された支援に結びついている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との対話に基づき個人を第一に考え支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送れるように心がけているが比較的自由に過ごしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している方が多い。 可能な限り普段の衣類もご自身で決めれるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形状や自助具の工夫、食事時の姿勢等個人に合わせている。 食事介助の方が多く、朝食を行いゆっくり個人のペースで食べていただいている。	全介助の入居者を先に支援し、見守りや指示、一部介助の入居者は、職員が伴食しながら支援している。入居者が職員のお弁当を覗き、「かわいく詰めてるね」と会話する姿があった。個別にキッチン鉢持参で好物の夕食やアイスクリームを食べに出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に献立を作成をお願いし栄養バランスは十分である。食事量や水分量は1日を通じ記録を残している。その日の気分で食事(ご飯)が摂れない場合は、栄養補助食品を捕食している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々に応じた介助等をしながら行なっている。又歯科衛生士による指導も取り入れ歯磨きが困難な方には、スポンジを使用しイソジンウガイ薬でエ口腔内を消毒をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンをチェックしその都度トイレでの排泄を心がけている。 ご本人からのサインを見逃さない様になっている。	パルンカテール留置で退院した入居者や立位保持が困難な入居者もあるが、チームで排泄支援に取り組んでいる。意思表示ができなくても、職員間の情報の共有で自然な支援が行われ、夜間もポータブルトイレを使用せず、トイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、こまめに水分補給をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に応じいつでも可能である。	2人体制で介助の必要な入居者もあるが、週2、3回入浴を支援している。浴槽にボードを渡し、足台を使用するなど、職員たちは工夫しながら支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて外気浴や散歩等行なっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方された説明文を個人ファイル綴じ周知している。 また処方の変更があった場合は看護師から介護職員に伝達している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合わせ役割分担している。 ペット等の世話、花壇の水やりや台所のお手伝い等		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出の機会をスケジュールに入れているが、重度の利用者が多く、外出機会は少ない	車椅子利用者が増え、初詣や季節の花見や祇園山笠、敬老会、宿場祭り恵比寿祭りも、午前と午後に分けて外出している。「今出かけたい」との意向を大切にしたい個別支援計画で、お好み焼きを食べに行ったり、おやつを買いに出かけたりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り金銭管理はご本人で行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物又は利用者が創作した壁画等を飾っている。 イベントの写真等飾っている。	玄関前にはプランターに季節の花々が植えられ、庭の草花や風に揺れる洗濯物のそばで、おっとりとした愛犬こころが出迎えてくれる。酷暑の夏はカーテンで日差しの調整をし、空気清浄器等を設置している。入居者と職員と一緒に作ったちぎり絵や貼り絵等作品が、玄関ホールやリビングに飾られている。入居者は気に入りのソファで寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分に応じソファや玄関先のベンチ等居心地の良い場所を確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自居室には自宅で使用していた馴染みのあるベッドや整理箆箆等を持ち込み生活している。	引き戸の各居室入り口には表札と目印の花飾りがある。愛用の箆箆やベット、机や椅子を持参し、自分らしい居場所になっている。畳敷きの希望で、畳に布団で寝起きしている入居者もいる。家族が持参した写真パネル等飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで各所に手摺りを設置しトイレや居室には表札を付け出来る限り自立した生活を送れるようにしている。		